



大部っ子

大部小だより

令和5年7月

「やさしく かしこく たくましく」－自ら学び、ともに生きる児童の育成－

文責：学校長



脳のお話～海馬と大脳皮質～

吉岡 優

目や耳などの感覚器から入ってきた情報は、脳の奥深くにある「海馬」という部位で一時的に保管されるが、そのほとんどは消え去る（忘却）。しかし、繰り返し思い浮かべたり、口に出したりすることでかたちづくられた情報だけが大脳皮質へ送られ、そこに刻みこまれる（定着）。
(※筑波大学名誉教授の朝田隆氏)

つまり、覚えるという作業でインプットされた最初の方の情報はまだまだ未熟で、そのままではすぐに忘れてしまう。けれど、繰り返しアウトプット（思い浮かべたり、口に出したり、テストを行ったり）するプロセスを経てちゃんとしたかたちで、大脳皮質に長期保存が可能となります。すなわち、繰り返すという学び方は、「情報（知識）を真に役に立つ長期記憶に育てるためのトレーニング」とも言えるかもしれません。



「繰り返し学習」の効果について、今話題の生成AI（Chat GPT）に聞くと「①記憶の定着、②理解の深化・正確性、③応用力の向上、④学習効率・集中力のアップ、⑤モチベーションの維持」の5つが示されました。平たく言うと、「わかる→できる→使える」の3拍子そろっているということではないでしょうか。さらに、⑤のモチベーションの維持、すなわち、やる気も出てくるとなるとやるしかないでしょう。

繰り返し学習ははっきり言って時間がかかります。ということは学校で実施するのは物理的に難しいので、家庭学習がとても大切だということになります。大部っ子6月号でもいいましたが、スマホで動画をみたり、SNSをしたりする時間を大幅に減らし（1時間以内）、繰り返し学習に取り組むと勉強がわかる、できる、使えることにつながるのです。もうすぐ夏休み、絶好の繰り返し学習タイムが到来します。保護者の皆様には子どもたちのやる気を大いに引き出させていただきますよう、お声がけをお願いします。

兵庫型学習システムについて

令和の日本型学校教育は「全ての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びの実現」をめざしています。そこで、兵庫県では平成13年度に始まった新学習システムを発展させた形で令和4年度から**兵庫型学習システム**が始まりました。本校でも昨年度から同システムを活用した学びを推進していますが、さらに、きめ細かな指導・支援を行うためその他、特色ある取り組みも実施しているところです。（具体的取組は以下のとおり）

【兵庫型学習システム】

- (1) 高学年の「国語・算数」は学級担任の交換授業による「教科担任制」
- (2) 「外国語（英語）」は旭丘中校区3小学校兼務の「教科担任制」
- (3) 「音楽・理科」専科制

【その他の指導・支援】

- (1) 児童支援教員等による複数指導体制（算数）
- (2) SA, ALT, SSS, SC, SSW の配置
- (3) がんばりタイム、学生サポート（兵教大）などの取組

警報発令時の対応について（お願い）

年度当初に、緊急発令時の対応はHPに掲載していますが、再確認いたします。

1つ目は、悪天候時、急な対応を迫られる場合があります。その際は常時スマホや携帯を持参し、こまめなチェックをお願いします。（小野市防災メール等への登録や[災害対応アプリ](#)の活用も有効）また、祖父母の方にも[校支援メールの積極的登録](#)（パスワードは4月配布のプリントで確認ください）に協力いただくなど、日頃から警報等の情報を多くの皆様と、いち早く共有できる体制を構築しております。

2つ目は、警報発令の場合は子どもの安全を最優先とし、「児童による集団下校は中止し、家庭のお迎えで下校する」としています。その時はすぐに「お迎え依頼メール」を発信します。メールではお迎え方法をお伝えしますので、迅速に指定する方法で対応していただきますようお願いいたします。



また、大部地区は川沿いという地理的状况から、洪水等の被害想定危険度レベルは低くありません。よって、本校は割と早期に「避難所」に指定されることが予想されます。その際、本校職員は避難される方の受け入れの準備と対応という重要な役割が発生します。よって、教職員の避難所業務への専念と高齢者を含めた地域住民の命を守るという職務を遂行するためにも「早めのお迎え」をくれぐれもお願いします。